

# 幼児期及び学齢期自閉スペクトラム症児を育てる 父親における主観的幸福感と関連要因に関する研究

○林知奈美  
（社会福祉法人すずらんの会 発達支援部門ぱれっと）

小島道生  
（筑波大学人間系）

KEY WORDS: 自閉スペクトラム症 父親 主観的幸福感

## 【目的】

ASD 児・者を育てる親の心理的側面について、これまで様々な知見が見出されてきた一方で、先行研究の多くはその子育てにおいて中心的な役割を担っている母親を対象にしたもの（柳澤，2012）であると指摘されている。

本研究では、3～12 歳の ASD と知的障害を併せ有する子どもの父親(ASD 父親群)における主観的幸福感について、同母親(ASD 母親群)、及び 3～12 歳の ASD 以外の診断と知的障害を併せ有する、もしくは、知的障害のみを有する子どもの父親(非 ASD 父親群)と母親(非 ASD 母親群)との比較により検討することを目的とした。併せて、主観的幸福感との関連が予想される各要因の得点や主観的幸福感との関連の様相について各群間の比較を行うことにより、ASD 父親群のポジティブな心理的側面について理解し、より適切な支援に繋げるための知見を得ることを目指すこととした。

## 【方法】

2020 年 7～10 月にかけて、計 212 部の質問紙を配布した。  
(1)調査の依頼と実施 各機関の代表者にメール及び書面にて目的や手続き、内容、倫理的配慮等に関する説明を行い承諾を得た。全ての対象者へ郵送による返送を依頼した。  
(2)質問紙の構成 フェイスシート、主観的幸福感、配偶者からの役割期待に対する認識、生活に関する満足度、ソーシャル・サポートに対する認識及び満足度、子どもに対する認識についての項目（SDQ 日本語版）で構成した。主観的幸福感、配偶者からの役割期待、ソーシャル・サポート項目の作成にあたっては、先行研究（青木，2009;伊藤ら，2003;加藤，2007;牧山，2011）を参考とした。

## 【結果】

(1)回答者 ASD 父親群 34 名、ASD 母親群 37 名、非 ASD 父親群 28 名、非 ASD 母親群 30 名の計 129 名を分析対象とした(回収率は父親 58.5%、母親 63.2%、全体 60.8%)。  
(2)主観的幸福感及び各要因の差異 各群における主観的幸福感及び各要因の得点について一要因分散分析を行った結果、ASD 父親群と他 3 群の間で、配偶者からの役割期待(育児の相談や調整の期待、家事役割期待)、ソーシャル・サポート(道具的サポート)、子どもに対する認識(総合的困難さ、強み)において有意差がみられた(Table1)。  
(3)主観的幸福感の関連要因 ASD 父親群の主観的幸福感と各要因の得点について Spearman の順位相関係数を算出した結果、配偶者からの役割期待(社会・仕事役割期待)、生活に関する満足度(仕事満足度、家計収入満足度、夫婦関係満足度)との間に有意な正の相関がみられた(Table2)。

## 【考察】

本研究の結果から、ASD 父親群と他 3 群の主観的幸福感には差がないことが示唆された。Hastings et al. (2001)等から、ASD 父親群の主観的幸福感 ASD 母親群より高く非 ASD 群より低いと予想されたが異なる結果となり、ネガティブな心理的側面とポジティブな心理的側面の程度は必ずしも直接関連せず、父親は母親と異なる支援ニーズを有していると推測された。併せて、ASD 父親群では社会・仕事役割期待への認識、仕事・家計収入・夫婦関係満足度の

	ASD父親群 (①)			ASD母親群 (②)			非ASD父親群 (③)			非ASD母親群 (④)			F値	多重比較
	平均 (SD)	N	平均 (SD)	平均 (SD)	N	平均 (SD)	平均 (SD)	N	平均 (SD)	N	平均 (SD)	N		
主観的幸福感	35.58 (3.42)	31	33.36 (5.70)	36	36.46 (3.42)	28	35.73 (4.67)	30	2.88 *	②<③				
配偶者からの役割期待														
育児の相談や調整の期待	4.17 (0.68)	33	3.51 (0.85)	37	4.31 (0.58)	28	3.56 (0.78)	30	9.49 ***	②<①/④<①/②<③/④<③				
家事役割期待	3.30 (0.83)	32	4.07 (1.03)	37	3.46 (0.90)	28	3.53 (1.07)	30	4.12 **	①<②				
社会・仕事役割期待	2.96 (0.80)	33	2.88 (0.72)	9	2.65 (0.67)	26	2.96 (0.71)	21	0.76					
生活に関する満足度														
仕事満足度	2.91 (0.76)	32	3.50 (0.50)	9	2.81 (0.56)	25	3.18 (0.78)	22	3.17 *	③<②				
家計収入満足度	2.68 (0.87)	34	2.94 (0.91)	36	2.63 (0.67)	27	2.73 (0.96)	30	0.83					
夫婦関係満足度	3.18 (0.82)	34	3.17 (0.80)	36	3.19 (0.72)	27	3.23 (0.92)	30	0.04					
ソーシャル・サポート														
道具的サポート	2.74 (0.54)	32	2.39 (0.67)	37	2.49 (0.50)	27	2.31 (0.47)	28	2.91 *	②<①				
情動的サポート	2.91 (0.52)	32	2.73 (0.63)	37	2.69 (0.55)	27	2.65 (0.53)	26	1.25					
情緒的サポート	2.66 (0.61)	32	2.96 (0.64)	37	2.43 (0.57)	26	2.78 (0.54)	27	4.33 **	③<②				
評価的サポート	2.83 (0.57)	32	3.15 (0.62)	36	2.52 (0.68)	26	3.02 (0.52)	27	5.62 **	③<②/③<④				
コンパニオンシップ	2.64 (0.57)	32	2.76 (0.74)	37	2.43 (0.62)	26	2.65 (0.56)	27	1.22					
満足度	3.25 (0.52)	32	3.11 (0.58)	36	3.21 (0.55)	28	3.12 (0.53)	29	0.47					
子どもに対する認識 (SDQ)														
総合的困難さ	16.10 (4.20)	29	15.89 (4.56)	37	12.43 (4.43)	28	11.56 (4.86)	25	7.49 ***	③<①/④<①/③<②/④<②				
強み	2.90 (2.35)		2.86 (2.50)		5.21 (2.30)		6.00 (1.92)		13.18 ***	①<③/①<④/②<③/②<④				

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

\*多重比較はTukey法による

Table 2 主観的幸福感と各要因の順位相関係数 (ASD父親群)

育児の相談 や調整	家事	社会 仕事	仕事満足	家計収入 満足	夫婦関係 満足	道具的 満足	情動的 満足	情緒的 満足	評価的 満足	コンパニ オンシップ	サポート 満足度	総合的 困難さ	強み
--------------	----	----------	------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------------	-------------	------------	----

.085 .067 .415\* .612\*\* .442\* .408\* .307 .149 .279 .147 .313 .219 -.176 -.110

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$

程度が高いほど主観的幸福感が高くなると示唆された。この結果は伊藤ら (2003) 等の先行研究と一部一致していた。加えて、これらの関連要因は非 ASD 父親群や ASD 母親群と複数共通していたが、主観的幸福感と社会・仕事役割期待への認識との関連がみられなかった点で非 ASD 父親群と、ソーシャル・サポート、子どもに対する認識との関連がみられなかった点で ASD 母親群と異なっていた。父親間の差異については、ASD 母親群の就業率の低さから ASD 父親群の担う仕事役割の大きさが推測され、社会・仕事役割期待の認識自体ではなく、期待を認識した上でそれに応えていると感じる別の認識を介して主観的幸福感に関連している可能性が推察された。また、父母間の差異は Papageorgiou et al. (2010) 等の報告と一致するものであったが、父親にとってソーシャル・サポートが重要ではないという結論に繋がるものではなく、父母間で支援のニーズや有用な支援が異なることを示唆するものであると推測された。したがって、父母間のコミュニケーションやそれを補う支援、父親を対象としたソーシャル・サポート研究を進めることの重要性が考えられた。

## 【主な引用・参考文献】

青木聡子 (2009) 幼児をもつ共働き夫婦の育児における協同とそれにかかわる要因：育児の計画における連携・調整と育児行動の分担に着目して。発達心理学研究, 20 (4), 382-392.

Hastings, R. P. & Johnson, E. (2001) Stress in UK families conducting intensive home-based behavioral intervention for their young child. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 31 (3), 327-336.

伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 (2003) 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討。心理学研究, 74 (3), 276-281.

加藤孝士 (2007) 養育者への重要な他者からのサポートと内的作業モデルの関連。発達心理学研究, 18 (3), 185-195.

牧山布美 (2011) しょうがい児を育てる母親の QOL に影響する要因—定型発達児の母親との比較—。川崎医療福祉学会誌, 21 (1), 53-63.

Papageorgiou, V. & Kalyva, E. (2010) Self-reported needs and expectations of parents of children with autism spectrum disorders who participate in support groups. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 4 (4), 653-660.

柳澤亜希子 (2012) 自閉症スペクトラム障害児・者の家族が抱える問題と支援の方向性。特殊教育研究, 50 (4), 403-411.

(HAYASHI Chinami, KOJIMA Michio)